



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第90号

2011.7.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- ーリーフレットができました
- ー高原の自然館の展示紹介

活動報告

- ー夜のモリアオガエル観察会（豊平）
- ー龍頭山の野鳥観察会
- ー霧ヶ谷湿原の植生調査（夏）
- ー霧ヶ谷湿原の昆虫観察会

観察会案内

- ー霧ヶ谷湿原 夏の生き物観察会ー
- ーブッポウソウの観察会
- ーこども観察会 ー水辺の生き物を観察しよう！ー
- ー千町原の保全活動
- ーカワシンジュガイの観察会

お知らせ

● リーフレットができました

NPO 法人西中国山地自然史研究会を紹介するリーフレットが完成しました。会が目指すもの、活動紹介、入会方法などを盛り込んだ内容です。高原の自然館にて配布していますので、ぜひご覧下さい。また、会の趣旨に賛同いただける方のご入会もお待ちしています。

● 高原の自然館の展示紹介

高原の自然館では、芸北のいきものを紹介しています。芸北の川に生息する絶滅危惧種のカワシンジュガイと、それに産卵するアブラボテ、また渓流に生息するブチサンショウウオを水槽にて飼育展示しています。滅多に見ることができない貴重ないきものに会いにきませんか？

観 察 会 報 告

● 夜のモリアオガエル観察会 (豊平)

開催日時:2011年6月10日(金) 19:00

講師:内藤順一

雨がしとしとと降っている夕暮れ時に、原東生活改善センターに11人が集合しました。今回の講師は内藤先生です。モリアオガエルは雨が降っている夜に産卵するので、観察するにはとても良い時だと仰りました。最初に、センター内で座学を行いました。その中で、モリアオガエルの特徴や生息域、他の緑色の体をしたカエルとの違いや見分け方などを教えていただきました。座学を終えて、外がすっかり夜の景色になった頃、観察場所の溜め池に向かいます。付近まで車で移動して、そこからは歩きとなりました。溜め池へと歩いている途中、いくつかのカエルの鳴き声が聞こえてきました。先生の解説で、ツチガエルやシュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエルだということが解りました。溜め池に到着してすぐ、モリアオガエルが産卵している場面を観察することができました。水上に張り出した木の枝の先にいる出来ている、ソフトボールほどの大きさの泡の中に、1匹のメスに5匹のオスが抱きついていました。専制の解説によると、泡は、産卵巣と呼ばれるもので、カエルの体液や排泄物などで出来ており、その中に産卵をして、孵化するまで保護するためのものだということでした。溜め池のほとりを歩いていると、先ほどの産卵場所と同じような枝のあちこちに、モリアオガエルがたくさんとまっていました。先生の話では、これらは全てオスのカエルで、産卵をするためにやって来るメスのカエルを待っているとのことでした。最初に見た産卵場所に戻ってみると、先ほどはじっとしていたカエル達が盛んに足を動かしていました。産卵巣を大きくするために、足でかき混ぜているのだ。と先生は仰りました。雨の中の観察会でしたが、普段見ることができないモリアオガエルの産卵を見ることができて、参加された方達はとても晴れやかな表情をしていました。[ありみつまさかず]



内藤先生がカエルについて解説中。



複数のカエルが塊になっているのを発見、期待が高まる。



モリアオガエルの産卵を見ることができた！



溜め池のほとりにモリアオガエルがいっぱい。



手に取ってじっくりと観察中。



雨が降る中でも、笑顔が見られた。

【みなさんの印象に残った物】

「あちこちでじっと待っているモリアオガエル」「産卵のシーンが見られたことです。(2)」「モリアオガエルが可愛かった。」「無数のカエルを見れました。」「モリアオガエルの産卵(抱接)を実際に見られて、カエルに触れたこと。」「モリアオガエル。」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「またイベントに参加します。(2)」「もう少し見たかったです。」「みなさんに助けていただき、子ども達と楽しい夜を過ごせました。特別な夜になって嬉しいです。ありがとうございました。」「これほどの良い会をもっとみんなに伝えればよかった。」「雨だから見られたと聞きました。」「多くの卵を見られて良かったです。」



身体に斑点模様のある個体も。

観 察 会 報 告

● 龍頭山の野鳥観察会

開催日時:2011年6月11日(土)6:00

講師:上野吉雄

あいにくの雨でしたが,5名の参加があり龍頭山の野鳥観察会が始まりました。今回の講師は上野先生です。登山口に車をとめ,傘をさし歩き始めました。雨が降っているので,鳥の姿や声あまり観察できないかなあ・・・と思っていると,最初にはげやかなヒヨドリの鳴き声が聞こえました。モリアオガエルの卵塊やそれをねらうアオダイショウの姿,コアジサイの花などを見ながら歩き進むうちに,「チュウベイチチュウベイチ,チュウベイチ」と鳴くメジロ,「焼酎一杯ぐいー」と鳴くセンダイムシクイ,名前の通り「ジュウイチ,ジュウイチ」とさえずるジュウイチの声を聞いたり,姿を見たりしました。雨乞鳥と別名を持つアカショウビンの鳴き声もよく聞こえました。立ち止まっていると「キョロロロロ・・・」から「キョロ,キョロ」という短い鳴き声に変わったので空を見上げてみると,翼をはためかせて飛ぶ,アカショウビンの姿を見ることができました。他にも,シジュウカラやゴジュウカラ,キビタキ,ウグイス,ホトトギス,アオゲラ,イカルなどおなじみの鳥も登場してくれました。登山道を下っていると,上野先生が「おっ!」と声をあげたので,何がいるのかな?と急いで双眼鏡を構えると,小さな鳥の姿がありました。上野先生によると,先生が子供の頃はよく見かけていたけれど,最近ではあまり見なくなったコサメビタキでした。越冬地の環境悪化が原因で数が減っていると聞きました。千町原にも生息しているとのことなので,また観察できるといいなと思いました。最後のまとめをしていると,小さな鳥が二羽,ジュウイチと並んで飛んでいる姿を見ました。これは小鳥がジュウイチをタカとまちがえており,群れになってタカ類などを追い払う行動で,モビング(擬攻撃)というそうです。こういった鳥の生態を間近に見ることができるのが,この観察会の醍醐味です。生きた知識をわかりやすく教えていただき,あっというまの2時間でした。[このやよい]



雨の中,ゆっくり歩き始めた。



バードウォッチングのマナーをみんなでおさらい。やさしいきもちを忘れないように。



「キョロ,キョロ,キョロ」と鳴きながら飛ぶアカショウビンを上空に見つけた。



登山道沿いにコアジサイが咲いていた。



ため池で観察。あいにくこの日はカワセミがいなかった。



ホオジロが見えるかな？



観察した鳥を図鑑でみて、生息地や特長を再確認した。



コサメビタキの姿が見えた！

【みなさんの印象に残った物】

「アカショウビンが目の前を飛んだこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「少人数で、ゆっくり質問できて楽しかったです。」
「アカショウビンを見られたことです。」

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原の植生調査 (夏)

開催日時:2011年6月25日(土)9:30

講師:佐久間智子・白川勝信

梅雨を吹き飛ばすような快晴のなか,14人が高原の自然館に集合しました。自然館の横手で打ち合わせをしたあと,車で霧ヶ谷湿原に向かいました。木道入り口付近にある立て看板の前で,白川学芸員より調査の仕方と,霧ヶ谷湿原がどのような方法で,やぶから湿原へと変わっていくのかを解説していただきました。その後,木道に入って調査を開始しました。最初に,湿原の中に1mに区切った場所を設けます。その区切った中を,どれくらい植物が覆っているのか,どんな種類の植物が,どのくらいの割合で,どの程度の高さまで成長しているのか,などを調べます。3班に分かれて12箇所を調査しました。日差しが強く,気温も高い中で調査でしたが,時折湿原を吹き抜ける涼やかな風が,暑さを和らげてくれました。その後,調査が終わってまとめに入り,それぞれの班が調査の報告をしました。最も多い場所では29種類の植物が記録されました。一方,水があまり行き届いてない場所では,フランスギクやハルザキヤマガラシなどの外来種が多く残っていました,どの班からも,「去年と比べて湿原生の植物が増えている」との意見が出ていました。少しずつ湿原へとその姿を変えている霧ヶ谷湿原に,参加者は,植生調査への確かな手応えを感じているようでした。[ありみつまさかず]

※西中国山地自然史研究会会員の廣森幹一さんには班長をつとめていただきました。



集合場所ではヒキガエルがお出迎え。



調査の前に手順の説明。



これは何の植物だろう?みんなで考えた。



調査場所の1つ。外来種であるフランスギクが目立つ。



調査終了。木陰で涼んだ。



フランスギクの高さを計測中。足が埋まる程の高さなので動きにくかった。



小さなハンノキ(写真左下)に見守られながら調査を継続。

【みなさんの印象に残った物】

「湿地の植物をじっくり見たのは初めてでしたが、まだまだ知らない植物が多く楽しかったです。」「最初に参加したときと非常に草花が多くなっているのに驚きました。」「昨年度と比較し、種数が目に見えて増加したこと。」「昨年よりフランスギクが少なかった。」「活動の中で多くの植物に触れながら、鳥のさえずりなども聞こえたこと。」「トモエソウ」「前回来させてもらった時より、種数も増え見違えた。その変化が印象深かった。」「湿地性の植物がたくさん増えて驚いた。」「霧ヶ谷湿原の様子。初めて見ました。」「種類が増えたプロットがあった。」「湿地の植物の種多様性が意外にあって興味深かった。」「みんなずいぶんと手際が良くなりました。」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「楽しく参加できたことは良かったです。」「アットホームな雰囲気ですら調査できてよかったです。」「外来種が多い。」「わからないことばかりでしたが、グループで活動することで楽しくできたので、また来たいと感じました。」「参加してとてもよかったですと思いました。」「やっぱり楽しい。」「引き続き素晴らしい湿原に変わっていくことを楽しみに、また参加したいと思います。」「植物がしだいに変化しているのを感じることができました。」「湿地の植物も奥が深くておもしろかった。」「暑かったです。高原を渡る風が心地よかったです。」

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原の昆虫観察会

開催日時:2011年6月25日(土)16:00

講師:岩見潤治・清水健一

太陽が傾き始め、涼しくなってくる頃、高原の自然館に子ども11人を含む、29人が集合しました。今回の講師は岩見先生と清水先生です。この他にも、虫の会から3名の方が参加されました。自然館の前で打ち合わせをした後、中に入ってシジミチョウやヒロシマサナエの標本を見て回りました。その後、車で霧ヶ谷湿原に移動し、木道に入って散策を始めました。子ども達が思い思いに網を振って昆虫採集を行います。様々な昆虫を採集し、先生に名前を教えてくださいました。木道内では、シオカラトンボやヒメシジミ、バッタの幼生などを見つけました。他にも、川の中に入り、手の平ほどの大きさの石をひっくり返すと、ヘビトンボの幼虫を見ることができました。木道を出てから少しの間自由時間をとりました。子ども達は、もう一度木道に入ったり、歩道を歩いて昆虫を探すなど、思い思いに過ごしていました。その間に、先生達はライトトラップの設営を始めました。辺りが暗くなり始めた頃、設営し終わったライトトラップに光が点きました。しばらく待っていると、たくさんの昆虫が集まってきました。ヘビトンボやカワゲラ、ガなどが、ライトトラップの光に呼び寄せられてきます。特にガは様々な種類のものが集まっていて、ヒトリガ、ギンモンカレハ、オオミズアオなどの姿を間近で観察することができました。途中で雨が降り始めたので、予定より早めの解散となりましたが、子ども達は、湿原の昆虫達と触れ合って、たくさんの笑顔を見せていました。[ありみつまさかず]

※採集は広島県および北広島町の許可を得て行っています。



はじめの会で、講師の紹介。今回は広島虫の会からも参加いただいた。



木道を歩き、みんなで目をこらす。



カワトンボの羽の美しさにうっとり。



川の石をめくる岩見先生 . さて , 何が ?



ライトトラップ点灯 . 最初は虫より人が多い??



ヘビトンボの幼生がいた～!



競い合うように昆虫さがし .

【みなさんの印象に残った物】

「雨の中でも沢山のガが集まったこと .」 「多くの種類の虫がいて驚きました .」 「湿原の様子 . 再生されてきた . 水生昆虫がたくさんライトに集まった .」 「いろいろな種類のガ .」 「光の種類でくる虫の種類が違うのを知って驚きました .」 「子ども達の参加が多く , 昆虫に興味を持っていたこと .」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「今日はたくさん子ども達が来られたのですが , 途中雨のため残念でした . 子ども達は結構楽しんでいたので , 良かったです .」 「観察する心が育てばいいなあと思います .」 「虫好きな人達と , 虫談議ができて嬉しかった .」 「いろんなライトトラップがおもしろかったです .」 「来年こそはクワガタ捕るぞ .」 「楽しかったです .」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 霧ヶ谷湿原 夏の生き物観察会

開催日時：2011年7月10日(日)9:30
集合場所：高原の自然館
講師：岩見潤治・大竹邦暁・和田秀次
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

霧ヶ谷湿原にはたくさんの生き物が生息しています。植物、昆虫の専門家と一緒に木道を歩きます。湿原に咲くハンカイソウやビッチュウフウロ、飛び回るヒメシジミが迎えてくれることでしょう。生き物の名前の由来を聞くのも楽しみのひとつです。

● ブッポウソウの観察会

開催日時：2011年7月16日(土)9:30
集合場所：芸北文化ホール
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

日本には夏鳥としてやってくる、青色のきれいな鳥ブッポウソウの観察会です。研究会で作成し、架けた巣箱に営巣しているブッポウソウを専門家と一緒に観察します。エサを運ぶ様子や、飛ぶ姿などを見て生態を学びます。くちばしの色に注目です。

● こども観察会 - 水辺の生き物を観察しよう -

開催日時：2011年7月24日(日)9:30
集合場所：高原の自然館
準備：基本セット、手網
定員数：小学生30名
参加費：小学生=100円・保護者=無料

霧ヶ谷湿原の堰で水生昆虫の採集を行い、その種類や生活の仕方を学ぶとともに、水生昆虫の生息環境について、みんなで考えます。水辺にはどんな昆虫がいるのでしょうか？夏休み最初の休日、親子で自然のおもしろさを体験して下さい。対象は小学生で保護者と一緒にご参加ください。

● カワシンジュガイの観察会

開催日時：2011年7月31日(日)9:30
集合場所：芸北文化ホール
講師：内藤順一
準備：基本セット、水に入れる服装、箱メガネ
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

氷河期を経て生き残った遺存種であるカワシンジュガイの観察会です。生息地の川へ入り、どんな姿で過ごしているのかを観察することができます。興味深い生態も、わかりやすい資料や写真を見ながら学ぶことができます。川に入ることのできる服装、滑りにくい足元の準備をしてお越し下さい。

「伝えたいいのちの輝き」企画展が9日間の会期をもって終了しました。多くみなさまに足を運んでいただき、大変ありがとうございました。版画、絵画、写真、陶器を通し、様々な視点から生物多様性を見つめる事ができ、「生物多様性とは暮らしの中にもあるものなんだなあ」と実感しました。特に八幡出身の井居文雄先生の作品を実際に間近で見ることができたのも、この企画展のおかげです。版画を通して、芸北の自然の豊かさ、人の営みの大切さを感じ、心動きました。西中国山地自然史研究会の記念事業、企画展以外にも予定していますので、どうぞお楽しみに。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info